

製茶圖解

全

Y994-J8258



11  
25  
92

特許局圖書館

新門  
五九  
茶  
冊

特許局圖書

508



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak







究心茶番解序  
 生産の業種々ありとて  
 とも茶の益ありと志といふ  
 さまと世話の精まると粗ま  
 とふありて大いよ品の好忌  
 あまは能く心を因申願ま

Y994

J8258

特許局圖書	
國	函
號	5
部	4
册	84號



I種

W



\*1200801189628\*



Y994  
J8258



ありあつて不慮に生ずるを教  
一其業を勵せしむるを以て  
白王國の用を足さんとして思  
ふに中絶ふ此番解を著して  
其業の始終を安んずる示し  
多きに誠としてよく心得る旨

不慮に生ずるを以て  
上下ともに生利を享んことを  
以てあつて不慮に生ずる

明治四年辛亥正月

彦根藩



茶の製法

茶の製法

茶の製法

茶の製法

茶の製法

# 製茶圖解

一 茶乃実を秋土用の頃より黒くするをつろくろと云ふは里能予々うらさせ

俵小入置垂し又志せんと落さるおち

実みくもよけきどりま

土氣をどくといま底そこ

つりてねはあえ





一茶の實前地梅の指渡式尺斗の穴と堀其中一肥と能く  
 一土沃乃せ実前するて土沃乃せ山土にくも根  
 かり茶葉を上とり其地所を粘く東南向暖氣乃場考  
 西北風をぬせ日法の方と第一と前なる地所を菜大根  
 と作るやうに根中根肥つよ〜い〜前〜



一茶の實前地梅の指渡式尺斗の穴と堀其中一肥と能く  
 一土沃乃せ実前するて土沃乃せ山土にくも根  
 かり茶葉を上とり其地所を粘く東南向暖氣乃場考  
 西北風をぬせ日法の方と第一と前なる地所を菜大根  
 と作るやうに根中根肥つよ〜い〜前〜









一茶の樹生立如房初年あね武斗生る武斗目五尺斗  
 あく武枝ある三年目には五尺五寸程少く五枝斗生立  
 四年目より実前の雲真葉斗と摘お下て茶と摘へき茶に  
 乏之のおと除置如房其の傾み重り其不除在之場所へ  
 若草を入置秋に至り其草表上へ土とや毎々毎年同申う  
 不いまう肥力にまうせ強く用ふなう





初年実生

二寸斗

二年目二枝生一尺斗

三年目五枝生一尺五寸斗



足元ノ土ヲ除ル

秋ニ至テ元ノ如ク  
土ヲ撒ル

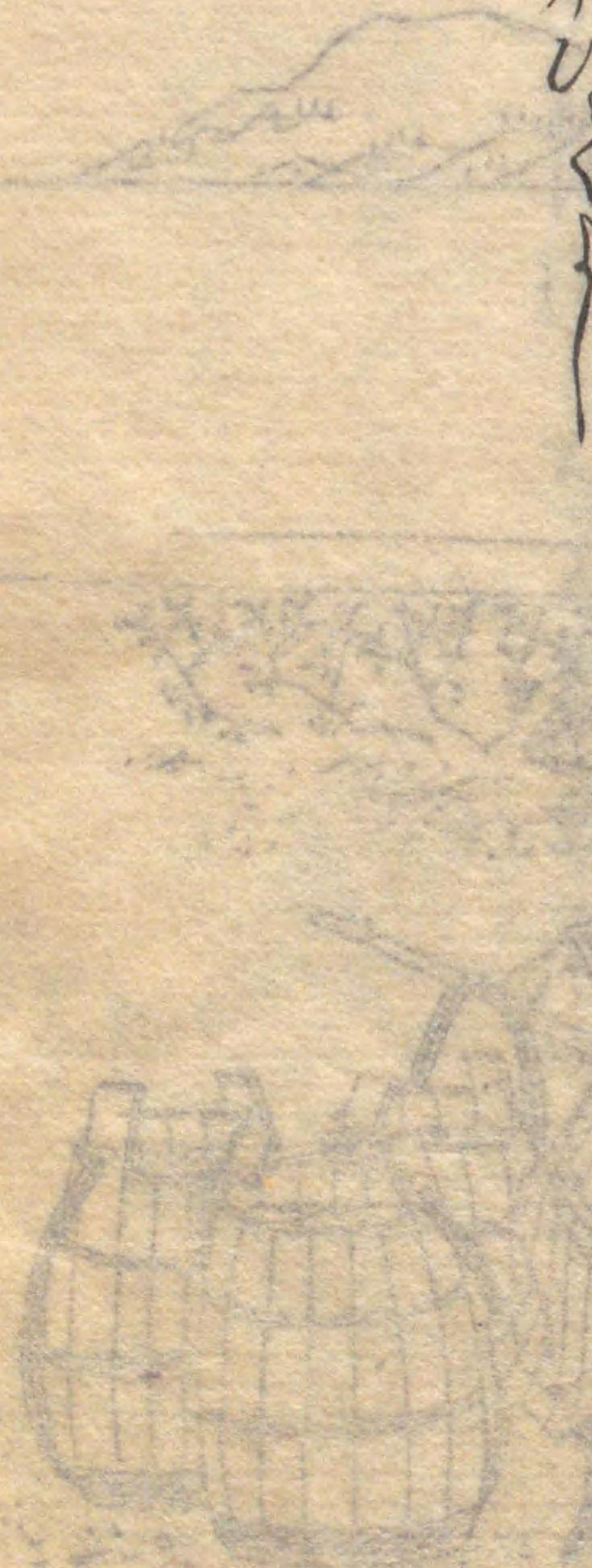




一三年目実前の茶窓を<sup>あつ</sup>ま<sup>と</sup>厚<sup>と</sup>に<sup>あ</sup>ら<sup>せ</sup>て<sup>ま</sup>秋<sup>い</sup>修<sup>げん</sup>岸<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>る<sup>今</sup>植<sup>う</sup>致<sup>す</sup>  
 地<sup>ぢ</sup>根<sup>こん</sup>の<sup>あ</sup>ら<sup>せ</sup>る<sup>下</sup>強<sup>く</sup>  
 ン<sup>と</sup>植<sup>う</sup>致<sup>す</sup>



一<sup>年</sup>の内<sup>ち</sup>肥<sup>え</sup>の<sup>仕</sup>事<sup>は</sup>茶<sup>ち</sup>園<sup>えん</sup>の<sup>根</sup>元<sup>もと</sup>一<sup>春</sup>と<sup>二</sup>月<sup>の</sup>頃<sup>ま</sup>夏<sup>なつ</sup>は<sup>四</sup>月<sup>に</sup>  
 乃<sup>よ</sup>来<sup>よ</sup>其<sup>の</sup>余<sup>り</sup>土<sup>を</sup>用<sup>ひ</sup>寒<sup>さ</sup>中<sup>に</sup>並<sup>ら</sup>べて<sup>四</sup>ヶ<sup>度</sup>度<sup>に</sup>肥<sup>を</sup>と<sup>ま</sup>夫<sup>に</sup>用<sup>ひ</sup>中<sup>に</sup>は<sup>十</sup>  
 々<sup>と</sup>肥<sup>を</sup>重<sup>く</sup>こ<sup>し</sup>雪<sup>の上</sup>より<sup>か</sup>く<sup>事</sup>事<sup>苦</sup>し<sup>う</sup>ん<sup>盛</sup>本<sup>に</sup>  
 ち<sup>こ</sup>こ<sup>下</sup>糞<sup>を</sup>第<sup>一</sup>と<sup>し</sup>て<sup>油</sup>か<sup>と</sup>雜<sup>に</sup>く<sup>れ</sup>し<sup>せ</sup>こ<sup>の</sup>蚕<sup>の</sup>  
 糞<sup>も</sup>用<sup>ひ</sup>こ<sup>す</sup>







一茶の茶摘中うね土地の寒暖年の豊凶なりしよりま春より  
 本躰八十八日やまの百日目位より摘るが先志ん茶五茶六葉  
 生るを志ん茶ふのときかぬとのまはむぬやまをよ上  
 茶しけせいさうの上志んふ今子儿はみそをえりり十  
 日程のうもれたはまをんかふ









蒸蓋

茶蒸籠

上二同

釜指渡

萱カ麦葉ニテ製ス

堅三寸斗檜木

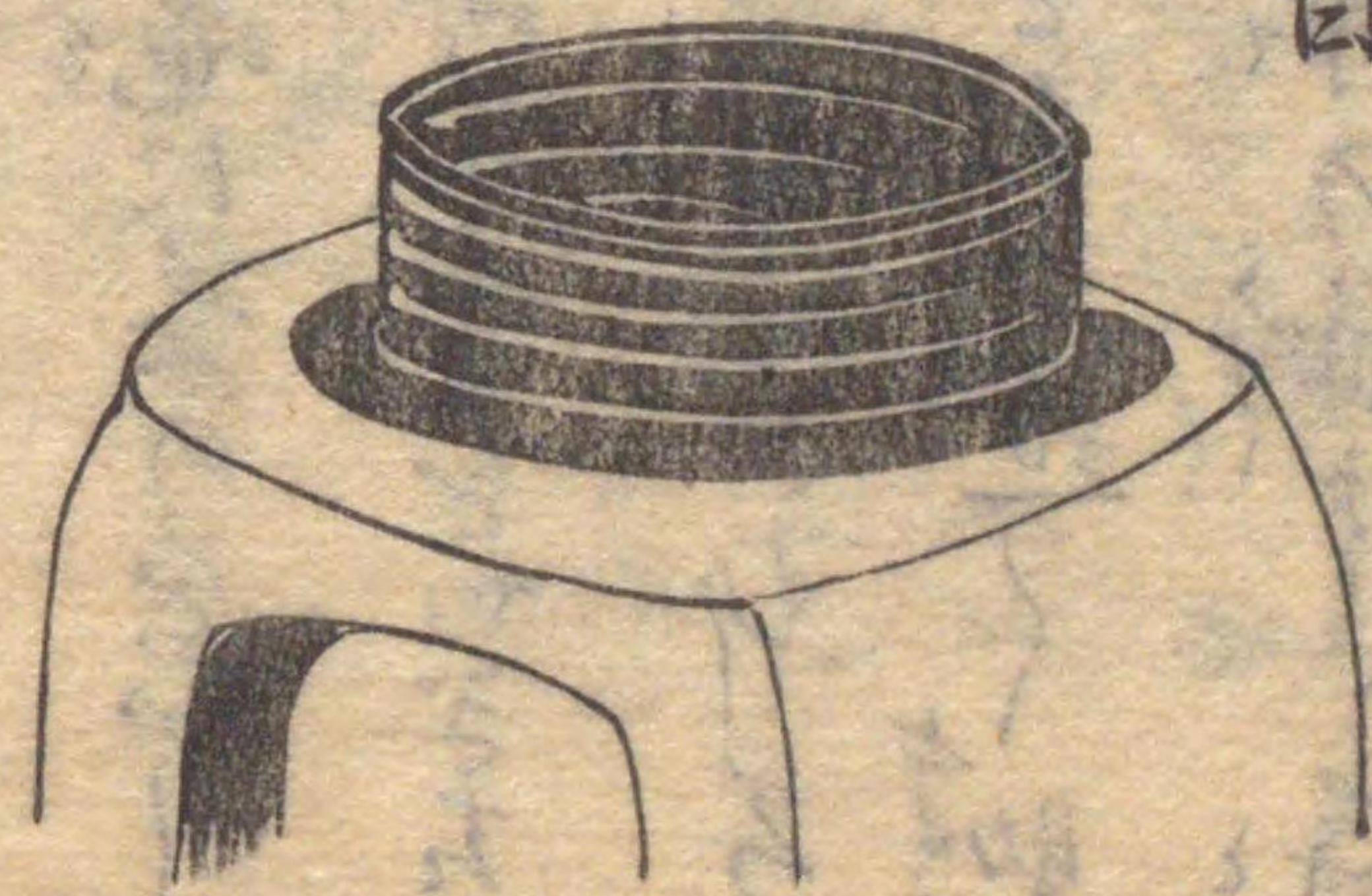
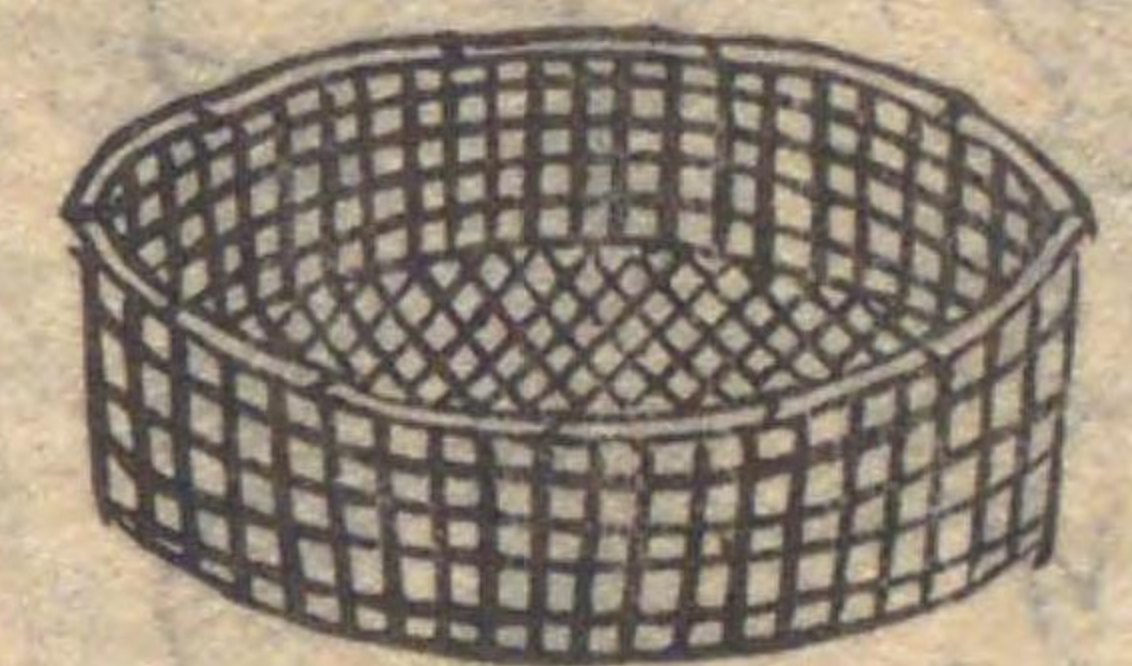
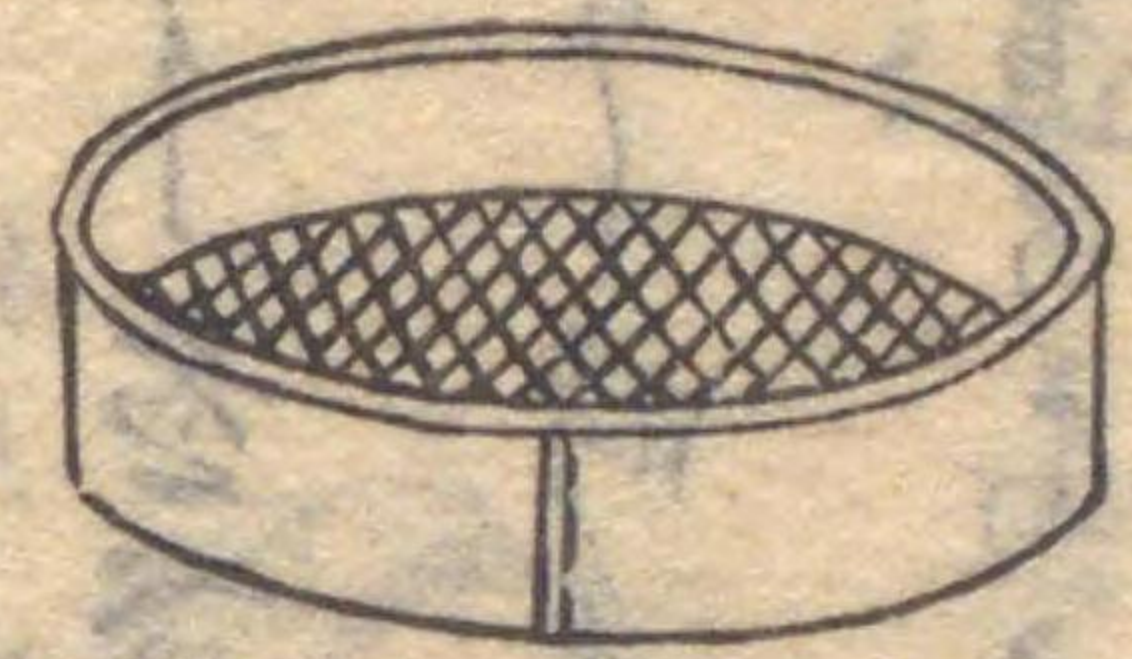
竹ニテ製ス

二尺斗

手怪キヲ好トス

皮ヲ製スルモ有

各四合目



一茶製造の次才と一ト爐の中(上)の炭目方三貫目斗ふこ

能入其上へ米俵半分迄乃葉を入一めん小燒葉灰中火

氣を和らぎ極む圓のおろくに仕立あり鉄撻を添 鉄あり

を添て其上へ助炭を掛蒸揚らる茶を入圓のおろくに

火を早く熱し 籠くまをたててた葉の葉赤くあり上

品に成るべく能く撻を入なり 其後手巾に掃て箕(

取入板の間ふちをさき葉を敷ちあつてまをたててふまひ

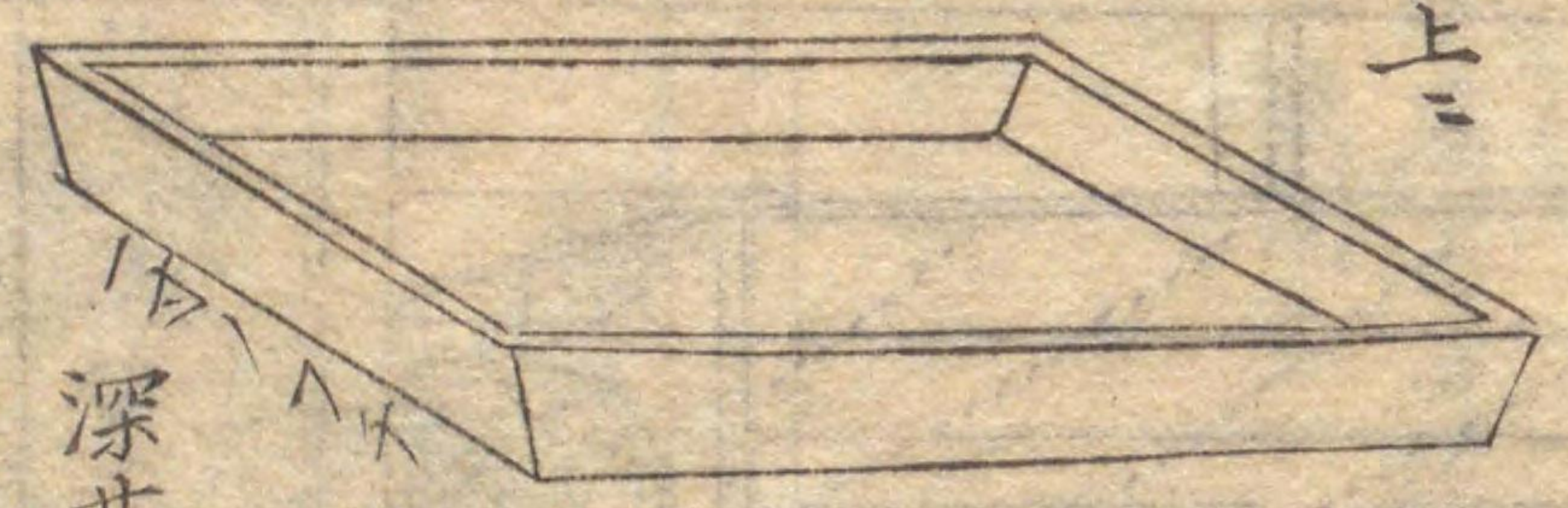
助炭(入)炭度も同じ事をして其後能くめりを去る



中は水才端紙の上へ多量に集むる蒸気より致し一層の火和  
 く蒸気少く能ふるひ茶盤の上より蒸気をとり一層の火和  
 此れが如減しく助炭少く再志ありを石燈の如く一層を  
 中櫃にて置置ししきり志をりを除けやう致し  
 中製造方試去上務理に成し

鉄網代上  
 糸ル

助炭圖



深サ二寸五分

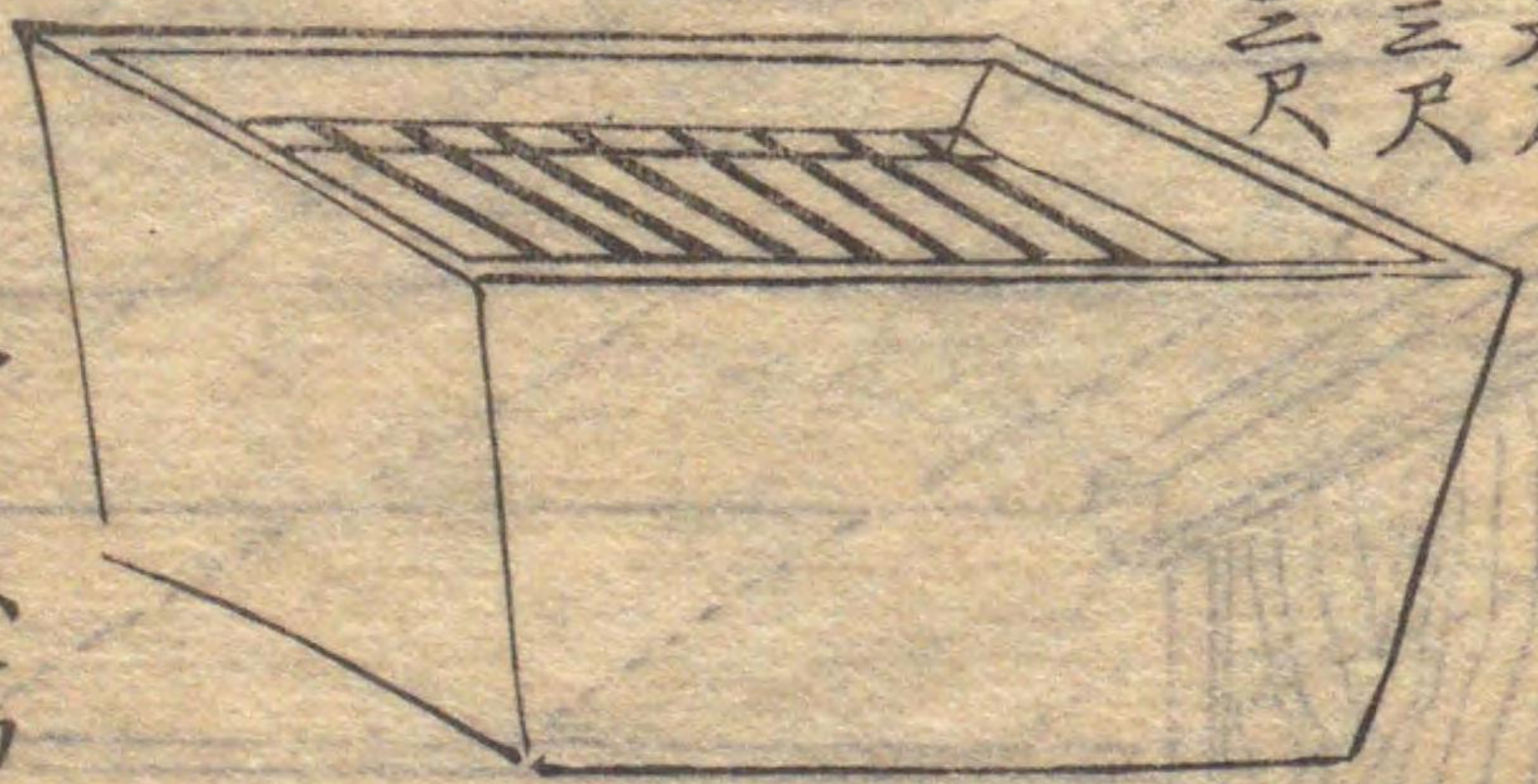
鉄橋ノ上ニ糸ル

鉄網代圖



爐  
 長サ六尺  
 高サ三尺  
 巾三尺

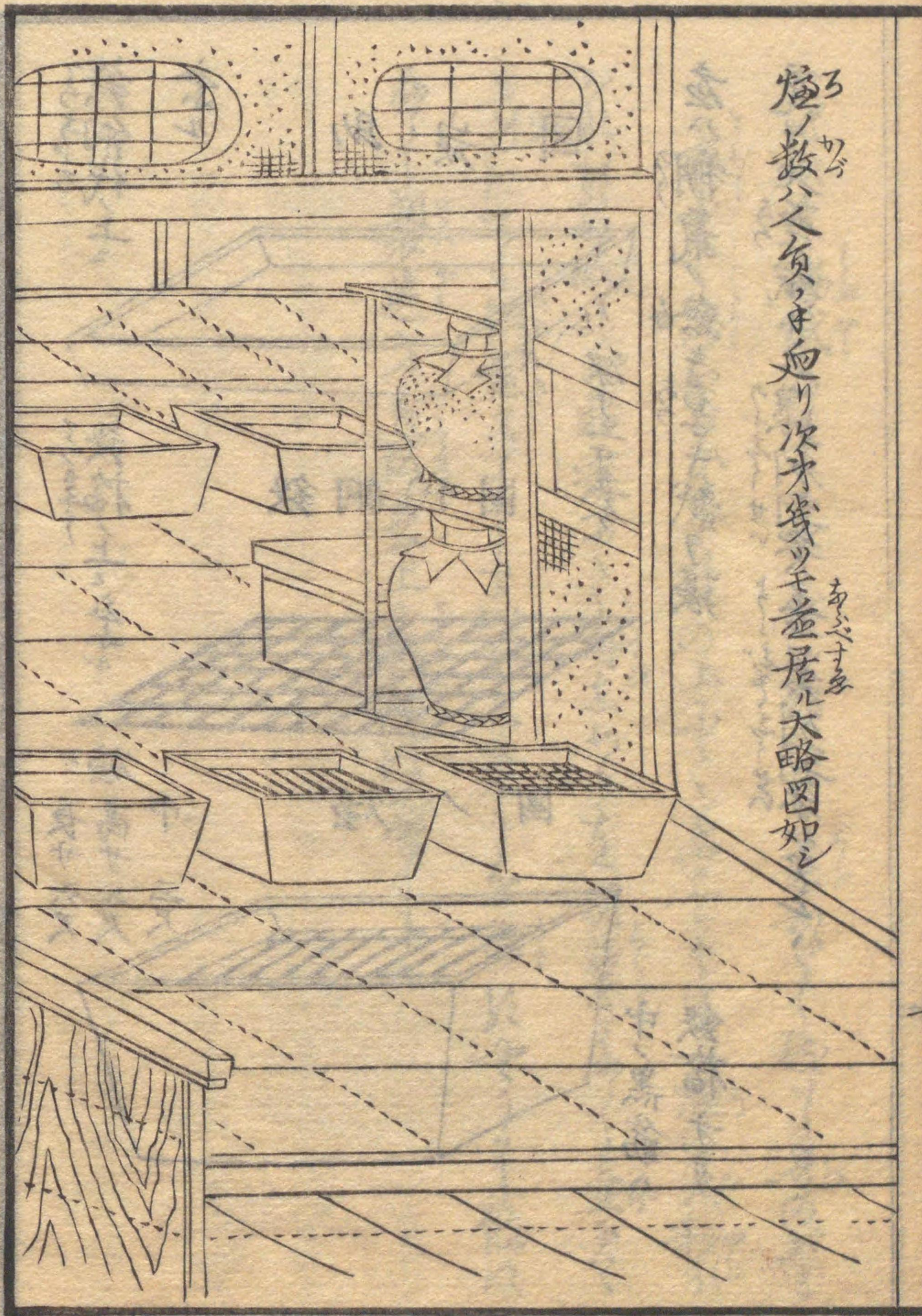
爐ノ圖



中ノ黒筋ハ  
 鉄橋ナリ

是ハ糊氣ノ無キ厚キ紙ヲ張  
 是ヲ北厚紙ト云濃別製者善若別製者ハア之、





燈ノ敷ハ人負ノ手廻リ次第安ク坐居ル大略図如シ  
有之ナキ



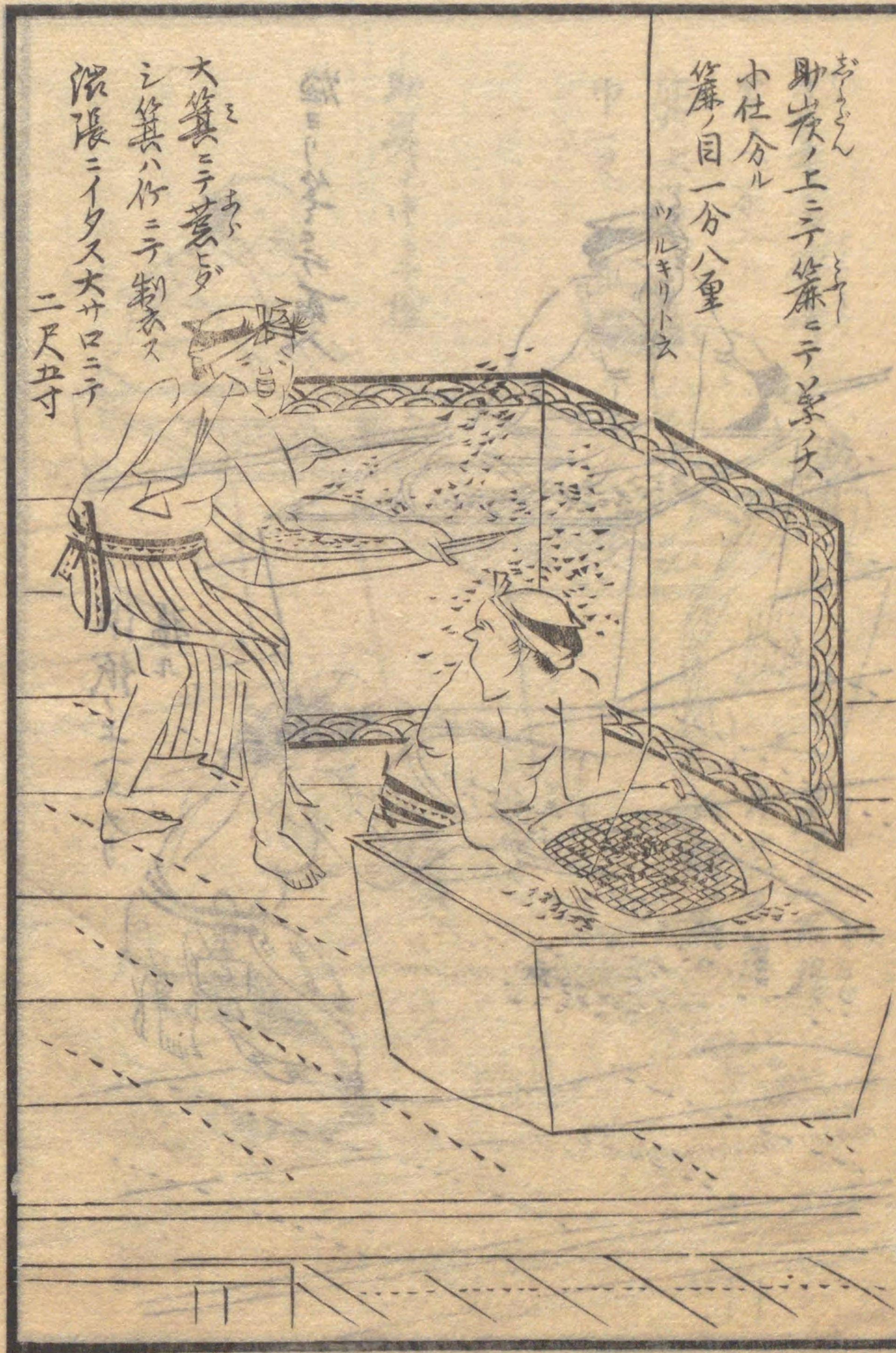
有之ナキ  
 蒸揚テ坐扇ニテサマス茶ノ  
 細ニ物ハ板間ニ

助先ノ中ニテ  
 年廿八年





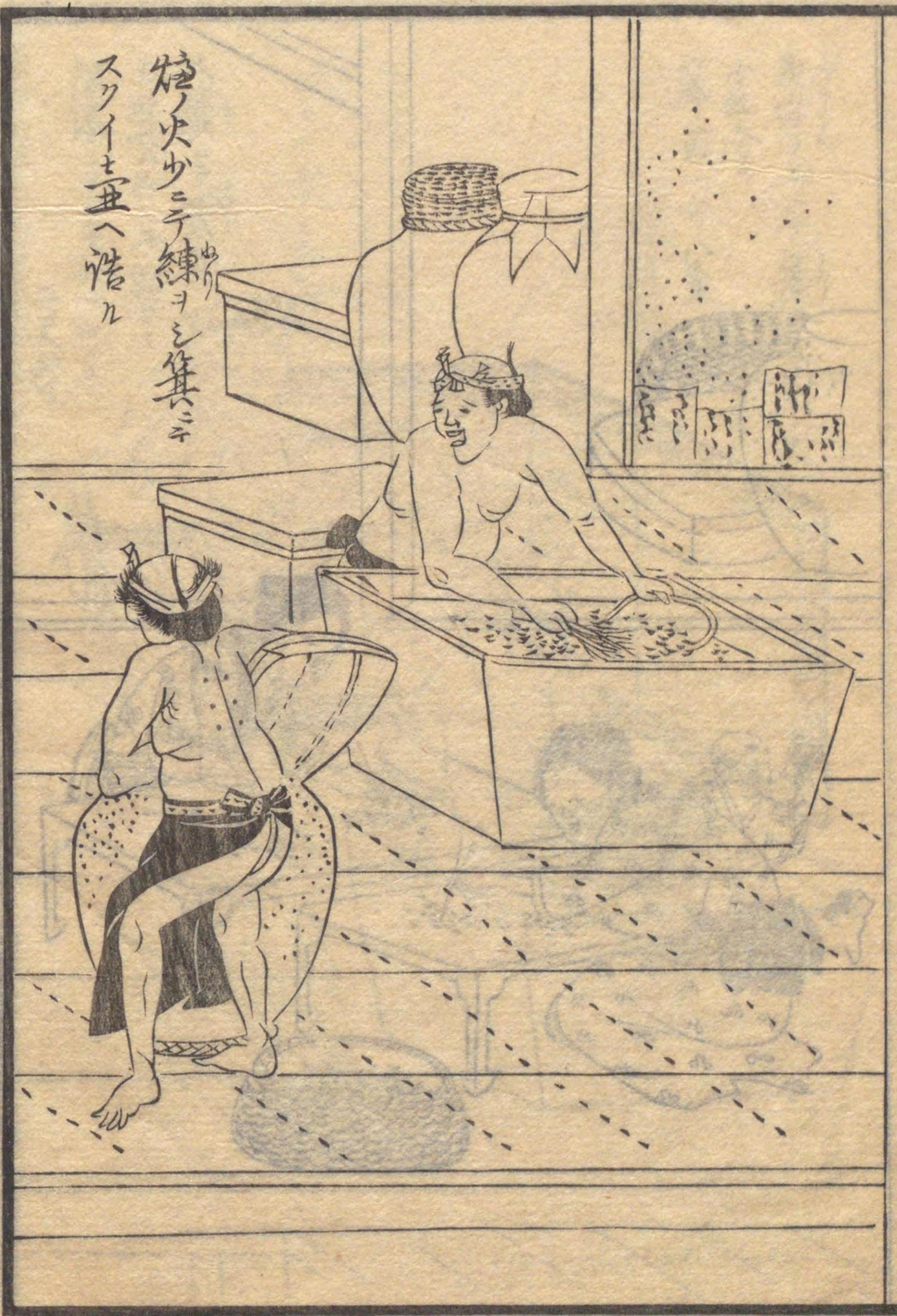








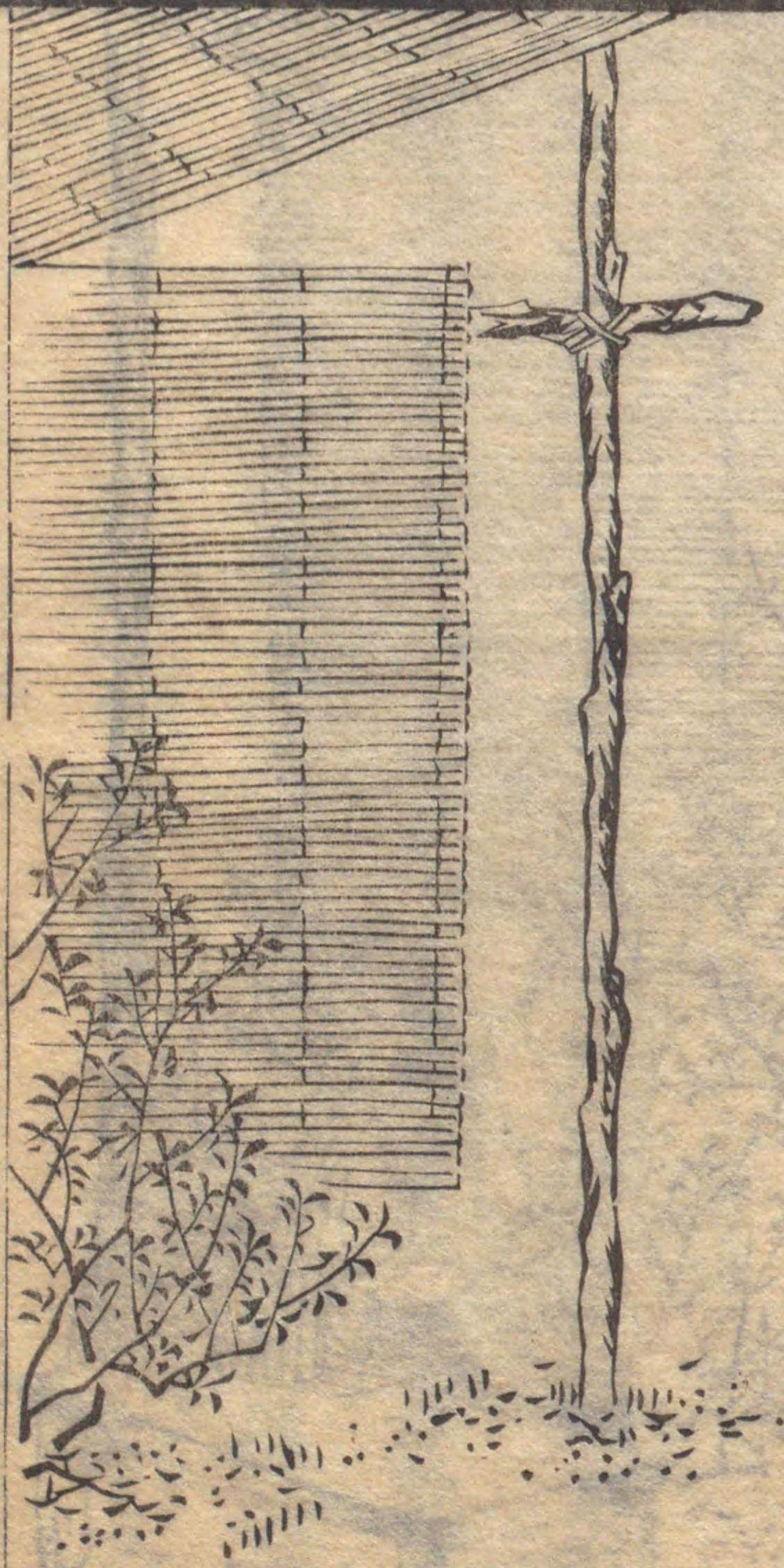
爐ノ火少ニテ練ゆヲ集あニテ  
スワイト丑へ浩ル



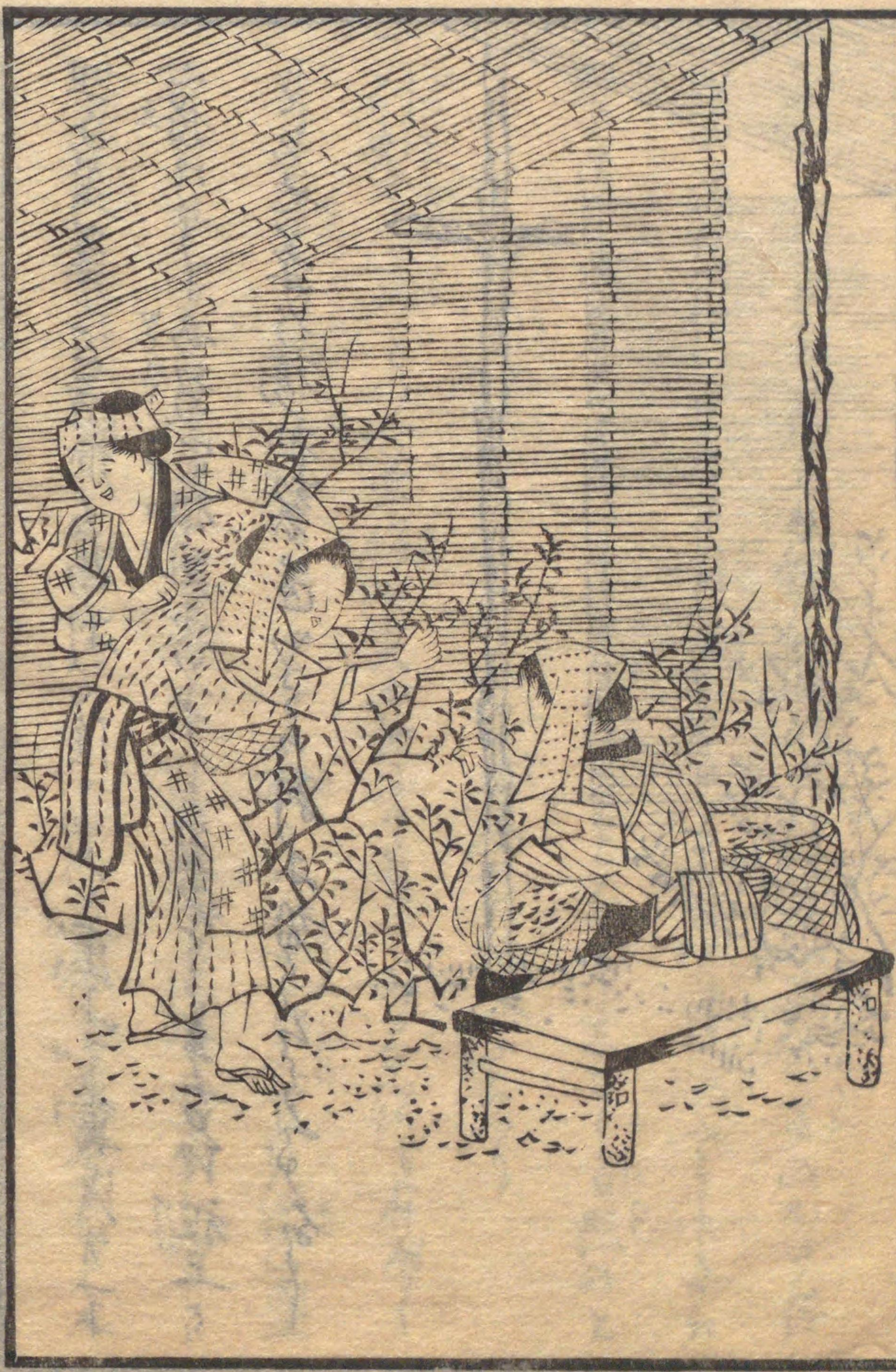


一武番茶と云はつたての園に橋仕茶其跡一再新芽のちと係  
 と武番茶といふ毎午能芽のちととのあり此橋やうと云  
 製茶造の次第は種作小智りたることありと云う日照の  
 一には茶園といふといひく武彦橋をたけふあり  
 一別製茶玉露といふ茶種は其土也小智りたる分種も有る  
 其茶種は精々年種をるを上樹といふ可成丈古法園の盛  
 ちの茶をさす一ふと毎春八十八夜をくり日のちとぬや  
 四方竹箒はく回ひ雨茶乃かぬぬ根も竹葉をさすり

其上管茶と云青眼の橋別と強く重小下糞法分一  
 心得心得てく心得ぬ新茶根固心得お心得く心得茶種も年古法程上  
 と云也茶乃橋和製茶造のちと別小智りたることあり







一 蒸気遠國せんきとんこく送るおくあねあね素焼すやき乃ついで毒どく由よし外と外と紙し  
 しくしく度ども張はり泥どろを引ひうう又またねね桂けいああくくももくく云い味あじ拾ひろをを武ぶ  
 貴たか目め入いねねをを内うち外そと姿すがた度どももろろ沼ぬま浅あ引ひ月つきひひててくく壺かふふ  
 ててもも桂けいふふててもも口くちのの目め張はりをを能よくままふふ  
 一 平日かみじつ蒸か野の相あ常とこねね扱あくく志こころ危あやりり我われ能よくふふままののああくくささく  
 置お所ところ所ところ才さい一ひとふふくく平へい常とこ雨あめ氣き甚おとのの夜よ露つゆをを能よく考かん目め後ご  
 東南とうなんの方かたははままいいみみ又また志こころ入い梅うめ乃ついで須すああをを備ひ以もつ考かん為なすす一  
 度いちど志こころををままくく心こころ蒸かのの色いろ香かををちちりり再まためめ元もと成なり第ついで申まを入い保たもここすす



専ら不可考

一 並べて茶園上ヤク留化まさりを仕ふる事な茶大根な麦あざ茶種なあり

若くはすひ五ご葉は多た葉は粉こなの類るいなり

製茶圖解 終





